

旧小池家土蔵

旧小池家土蔵は、幕末近くに建てられたもので、200 年以上の歴史があると考えられている。2010 年からは住吉神社の夏祭りで使用される山車を大切に保管する場所として整備された。また、浜崎港町の歴史的建築物の特徴を解説した展示もある。

蔵の東側の壁には、黒い陶器の四角いタイルが貼られている。瓦の間の継ぎ目には漆喰を盛り付け、その継ぎ目がなまこの丸みに似ていることから「なまこ壁」と呼ばれる独特の格子状の模様を作り出している。蔵の床は、港から運ばれてくる重い荷物に対応できるように、固めた砂の上に松の漆塗りの床を敷いている。

住吉神社の夏祭りは 1665 年に始まり、現在も毎年夏に開催されている。展示の中心となるのは、祭りの担ぎ手によって街道で引かれる大きな船の形をした「御船山車」である。その横には、巨大な天狗の赤鼻の猿田彦面山車と、御神幣山車が並んでいる。後者には、御神酒や葵の枝などの神器が担がれている。

また、「ひじり」と呼ばれる 2 体の雛人形も展示されている。観客のためのこれらの特別な見物は、祭りの間、指定された運び屋の背中に乗って運ばれる木製の移動ステージに設定されている。かつては 50 台以上あったが、現在は 3 台のみとなっている。また、祭りの期間中、街中を練り歩く「のんた提灯」と呼ばれる 2 つの巨大な提灯も展示されている。現在使用されている提灯は別の場所に保管されている。